

アメリカの人口が3億人を突破

人口減少社会に突入した日本とは裏腹に、アメリカの人口がこのほど3億人の大台を超えた。39年前には2億人だったが、アメリカ国勢調査局の推計では、アメリカの人口は11秒間に1人のペースで増えている。世界中の国から移民を受け入れている移民大国だから、日本とはストレートに比較はできないが、日本の合計特殊出生率(2005年)が1.25と、最悪の状況にあるのに対し、アメリカは2.05(2004年)で、人口維持に必要な2.0を確保。それにプラスして移民人口が急増している。

第2次世界大戦直後のベビーブーム期を経て、1980年代前半には欧米、日本ともほぼ同じ少子化傾向にあった。その後、女性の社会進出が進んだアメリカやスウェーデン、フランスなどで出生率が上がり始めた。託児所の整備、企業の支援制度や男女の育児分担、子育て世代への財政的支援・税制優遇などが効果を発揮し始めたのがその理由である。

アメリカは先進国の中で唯一、人口が増え続けている。出生率は現在の人口を維持するペースを保っているうえ、さらに中南米出身のヒスパニック系移民が流入し続けているから、増加のペースは上がる一方だ。同調査局によると37年後の2043年には4億人に達する見込み。現在ヒスパニック系人口は4,470万人で、総人口の15%。既にアフリカ系アメリカ人の人口を超え、2040年代にはアメリカ人の4人に1人がヒスパニック系になる。白人の人口は2050年頃には半数を下回ると見られる。

ヒスパニック系移民はメキシコ国境を越えるケースがほとんどだが、その3割は不法移民ともいわれる。最初は低賃金の職種に就くことが多く、医療保険など社会保障の適用を受けられない。アメリカの社会的格差の拡大や、職種による労働分布にも変動をもたらしている。このため移民規制を強める動きがあるが、最近もヒスパニック系によるデモが全米に広がり、大々的に報道された。その一方で、アメリカ経済はヒスパニック系移民の存在抜きには、維持できないという現実論も根強く、論争は続いている。

アメリカも日本ほどではないが高齢化し、単身世帯が増えている。今回実施された中間選挙や、次期大統領選挙でも政治的パワーを発揮。社会的にも発言力を強めている。ヒスパニック系の人たちは出生率が高い。将来的には第二世代が税金を払う現役世代として、高齢化したアメリカ人の社会保障政策を支えるという構図が現実味を増してきた。

アメリカでは3億人目の赤ちゃん探しに熱中していると、メディアが派手に伝えているが、3億人目は赤ちゃんではなくヒスパニック系の移民ではないかと推測する人も多い。日本も移民政策を真剣に考える必要がありそうだ。(渋川智明)

参考：U.S. Census Bureau=<http://www.census.gov>

2006年アメリカ老年学会(GSA)報告

2006年第59回GSA(Gerontological Society of America=アメリカ老年学会)年次研究会は、テキサス州ダラスで11月20日に盛会のうちに幕を閉じた。GSAは4年に一度首都ワシントンD.C.で開催されるが、その他の年は、シカゴ、ボストン等の大都市を回る。老年学教育を受けた者にとって、GSAは基幹学会であり、ふるさとである。

GSAの創始は1945年。初代学会長はWilliam deB. MacNider(ノースカロライナ大学薬物学教授)。

しかし、その萌芽は39年に24

名の科学者や医者が設立した「Club for Research on Ageing(高齢化に関する研究クラブ)」にある。GSAの目的は、①高齢化に関する研究の促進、②研究成果を幅広い学術領域で共有すること、そして、③研究成果を公共政策に役立たせることである。その精神は、GSA Annual **Scientific Meeting**(年次研究会/筆者訳)という名称にも表れており、3,000名以上の参加者、かつ、約500の研究セッションを必要とする膨大な量の研究発表を管理する今でも、脈々と受け継がれている。

第1回GSA年次研究会は、46年にニューヨークで開催。参加者は50名(24本の論文発表)であった。同年、学会誌第1巻目も発行。学会初期には医学領域中心の研究発表が多かったが、今では、行動科学・社会科学および政策・実務分野も合わせた広範な分野を網羅するアメリカ一、すなわち世界一の規模で、世界唯一の、最も古く権威ある老年学会に成長した。現在では4領域別に2種の学会誌や『The Gerontologist』を隔月発行。加えて、News LetterやPolicy Report等も発行する学会となった。

2006年の第59回GSA年次研究会のテーマは、“Education & Gerontological Imagination(教育と老年学的想像力)”であった。「教育」といえば、アメリカで274の大学や短大がメンバーとして名を連ねるAGHE(Association of Gerontology in Higher Education=高等教育老年学協会)を忘れてはならない。99年からGSAの一部となり、全米の老年学教育推進活動を進めているAGHEの次の年次集会は2007年3月にオレゴン州ポートランドで開催される。

世界の老年学研究の最新情報が一度に入手できるGSA年次研究会。2007年11月には第60回目がサンフランシスコで開催される。平均寿命、高齢化率、高齢化の速度の3指標が今や世界最高の長寿大国日本。今後は、日本の研究者は世界から学ぶだけでなく、日本の老年学研究成果や高齢社会への取り組みを、GSAを通じて積極的に世界に向けて発信する必要があるのではないだろうか。(塚田典子 日本大学大学院 グローバル・ビジネス研究科教授)



第59回GSA年次研究会のプログラム

参考：GSA=<http://www.geron.org>
AGHE=<http://www.aghe.org>